

## 試験研究成果普及情報

部門	稲	対象	普及
課題名：飼料用米向け水稻品種「べこあおば」の千葉県における栽培特性			
[要約]「べこあおば」は、収量性、耐倒伏性に優れ、主食用米品種と容易に識別できる。また、本県の水利条件に適合し、収穫時に主食用米品種との労力競合が生じない。			
キーワード 水稻、品種、飼料用米、「べこあおば」、粗玄米重			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・育種研究所・水稻育種研究室 協力機関 畜産総合研究センター		
実施期間	2009年度～2011年度		

### [目的及び背景]

水稻を飼料として利用することは、家畜飼料の安定供給、食糧自給率の向上、転作の促進による一般食用米の過剰生産の解消のためには重要である。このため、千葉県に適した飼料用米向け品種として選定された「べこあおば」の栽培特性を明らかにする。

### [成果内容]

- 1 5月7日植え「べこあおば」の成熟期は9月4～11日であり（表1）、4月下旬植え「コシヒカリ」と比べ、3～5日遅い。
- 2 「べこあおば」の粗玄米重は「ちば28号」と比べ78～172kg/10a多く、収量性に優れる（図1）。
- 3 牛ふん堆肥施用田で多肥栽培（10a当たりの施肥窒素量が基肥15kg、穂肥3kg）を行っても、「べこあおば」の倒伏は軽微である（表1）。
- 4 「べこあおば」の玄米千粒重は「ちば28号」に比べ30～36%大きく、長粒種のため、主食用品種と容易に識別できる（写真1）。
- 5 収穫後、土中に埋没した「べこあおば」の粳は、翌年には発芽能力を失う（表2）。

### [留意事項]

- 1 主食用品種との移植及び収穫作業の競合や障害型冷害の回避のため、移植時期は5月上旬移植とし、早植えを避ける。
- 2 穂肥の施用窒素量が少ないと、低収の原因となるので、適正量を施用する。
- 3 「べこあおば」は、千葉県で優占していると考えられるいもち病菌レースに対して真性抵抗性を有する。
- 4 主食用米品種に転換する場合は、収穫後、ただちに耕うんし、10月まで圃場を止水することにより、漏生粳の発生を抑制することができる。

### [普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

飼料用米栽培面積 1,013ha、うち「べこあおば」26ha（平成23年度）

[成果の概要]

表1 「べこあおば」及び「ちば28号」の生育ステージと倒伏程度(平成22年)

試験区	出穂期		成熟期		倒伏程度		稈長 (cm)	
	べこあおば	ちば28号	べこあおば	ちば28号	べこあおば	ちば28号	べこあおば	ちば28号
N0-0	7.27	7.23	9.4	8.30	0.3	0.8	69	69
N9-3	7.26	7.23	9.6	9.1	0.8	3.0	74	83
N12-0	7.27	7.23	9.5	8.31	0.8	2.8	73	81
N12-3	7.27	7.23	9.5	8.31	1.0	3.3	74	81
N15-0	7.27	7.22	9.6	8.31	1.5	3.3	76	81
N15-3	7.27	7.22	9.6	9.2	1.0	3.8	75	83

- 注1) 水稻育種研究室(香取市), 砂壤土, 牛ふん堆肥2t/10aを3年連用  
 2) 5月7日稚苗移植, 栽植密度18.5株/m<sup>2</sup>(30cm×18cm), 4本植  
 3) 試験区は, 基肥-穂肥の窒素量(kg/10a)を示す  
 4) 倒伏程度は0(無)から5(甚)の6段階で評価



写真1 玄米の外観品質 (左:「べこあおば」 右:「ちば28号」)

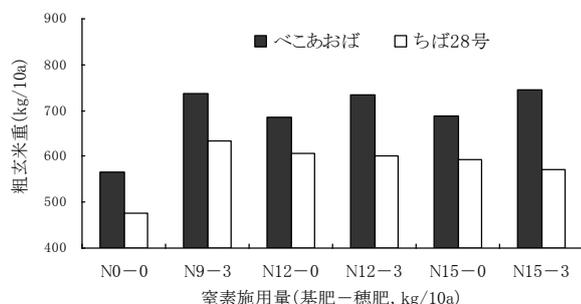


表2 田面及び地下10cmの土中に設置した「べこあおば」及び「ちば28号」の越冬後の発芽率

試験年	籾回収日	田面		地下10cm	
		べこあおば	ちば28号	べこあおば	ちば28号
平成21年	翌年1月	0.0	0.6	0.0	0.0
平成21年	翌年4月	0.0	0.3	0.0	0.0
平成22年	翌年1月	0.5	1.1	0.0	0.0

- 注1) 設置日は平成21年が9月23日, 平成22年が9月26日  
 2) 設置日から10月中の間は圃場を止水状態とした

図1 「べこあおば」と「ちば28号」の粗玄米重(平成22年)

注) 表1に同じ

[発表及び関連文献]

- 温暖地早期栽培地域における飼料用向け品種の選定、日本作物学会関東支部会報(25)、26-27、2010年
- 平成21・22年度試験研究成果発表会(作物部門)
- 平成24年度試験研究成果発表会(作物部門)
- 水田における飼料用稲の生産利用技術の確立研究成果集、17-23、2011年
- 飼料用米向け水稻品種「べこあおば」の千葉県における栽培特性、千葉県農林総合研究センター研究報告、第5号、2013年